

アガペの台座が見つめたもの

日本社会事業大学 学生支援課長
池田 拓

I はじめに

日本社会事業大学（以下、「社大」という。）のシンボルにアガペ像がある。作品名は《ウブゴエカラ灰トナリテマデ》という母子像である。旧原宿校舎前庭にあった台座の上に、彫刻家の渡辺義知によって昭和 33 (1958) 年に制作されたものだ。像を支える台座は、社大に現存する最も古い工作物である。現在もアガペ像とその台座は清瀬校舎の管理棟南側に建っているが、その歴史を語る人物や文献は数少ない。

この研究報告は、アガペ像が社大のシンボルとされている理由を明らかにし、どのような人物が関わりどのような想いを込められてこの地に至ったのか、その価値に託された連続性と循環性を追求し、社大の存在意義を見つめ直し共有することで今後の福祉社会の発展に寄与することを目的とする。

アガペ像の下に鎮座する台座は社大の前史に関わる重要な礎となっている。台座が何を見つめ何を支えてきたのか、シンボルとしてのアガペ像を検証することで関係者の参考となる記録となれば幸いである。とはいえ筆者は戦争の時代も原宿校舎の時代も直接に知らないことから、誤った認識や乏しい情報によって読者に不快な思いを抱かせてしまったら不本意としてお詫びする。時の経過によって埋もれたままの事実や情報が見つければ本研究報告の更なる進展に繋げていきたい。

II 海軍館と美術

幕末の文久 2 (1862) 年、鳥取藩主だった池田慶徳¹は攘夷論の立場から中央政界に参画 [鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課 2021] し、亀井隠岐守の所有していた原宿村の土地約 2 万坪を手に入れた。3 m を超える大木が森をなし約 800 坪の池（後の東郷神社の池）には冬になると海を渡って鴨の大群が飛来し、慶徳公は池に鴨引き堀を造成し猟場とした。[株式会社 MIT 1988]

昭和 9 (1934) 年 5 月 30 日に東郷平八郎が 88 歳で死去すると、神格化の要望が全国各地から海軍省へ届き、大角岑生海軍大臣は財団法人東郷元帥記念会を設立し、全国の浄財により池田仲博侯爵²の土地を譲り受け東郷神社が創建された。[東郷神社 2021]

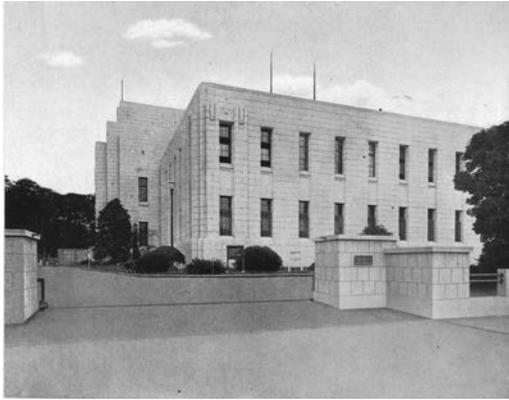
昭和 10 (1935) 年 8 月 3 日、海軍軍事思想の普及および海國精神の滋養を目的に「渋谷区原宿三丁目二百六十六番ノ二池田公爵邸隣接地」へ財団法人海軍館を設立する申請が寄附行為とともに大角海軍大臣へ提出され、同年 8 月 15 日付でその設立が許可された。[国立公文書館アジア歴史資料センター 1935]

当時の東郷神社や海軍館が建つ経緯は、明治通り反対側にあった吉川酒屋（空樽問屋）で少女時代を過ごした家城定子氏のエッセイ『原宿の思い出』に記されている。[家城定子 2002]

海軍館の建物は鉄筋コンクリート地下一階、地上三階、建坪 320 坪で、海軍に関する記念物、参

1 池田慶徳（いけだ・よしのり、1837-1877）：大名、因幡鳥取藩第 12 代藩主。徳川 15 代将軍慶喜と同年生まれ異母弟。

2 池田仲博（いけだ・なかひろ、1877-1948）：華族、池田慶徳の二男・輝知の養子・徳川慶喜の五男。



(写真1) 昭和16年頃の海軍館全景図
出典：『海軍館大壁画史』
[財団法人東亜振興会 1941]



(写真2) 海軍館観覧招待券〔表裏〕
所蔵：日本社会事業大学



考品、図書、絵書等の募集と公開、映写等を事業として、帝国海軍の栄光の歴史を伝える記念館として昭和12(1937)年5月21日に開館式が行われ27日の海軍記念日から一般公開された。海軍館の観覧招待の裏面には参考として主な陳列品や映写日時が記されていた。展示室などが描写された開館記念絵葉書が土産品として販売された。

正面入口にはスイッチを押せば波や軍艦が動き出す「日本海海戦」の電気仕掛けの模型や、東郷元帥の遺品、水兵のセーラー服が来館者の目を引き、屋上の潜望鏡は男児に人気だった。地下に降りた軍人専用食堂の前にはミルクやパンがディスプレイされていた。庭には敵弾に打たれ片翼のまま帰還した戦闘機《樫村機》の展示、正門の側にあった壁面には《肉弾三勇士³⁾》の銅像が立っていたといわれる。[家城定子 2002]

海軍館の三階には絵画室が設けられ、明治維新以来の海軍史を語る厳選された17点の画題と作者は開館前年昭和11(1936)年7月に決定された。[東京文化財研究所 1936]

海軍記念日前後5月25日から30日まで三越本店で海軍協会主催・海軍省後援で「海洋美術展覧会」が催され、海洋美術展覧会に出品した洋画家

の一部と海軍軍事普及部、海軍協会が6月10日に「海洋美術会」を結成し、海に興味を持つ画家が会派を超越し団結をはかられ、海軍協会と海洋美術会の共催で毎年「海洋美術展覧会」が催されるなど海軍館と美術家との結びつきは強固なものとなった。[土田宏成 2009]

III 謎の解明

1 アガベ像の台座にはかつて戦争を象徴する像が立っていた。その正体は長きにわたり社大の謎としてベールに包まれていた。昭和62(1987)年春に2～3年次生だった仲の良い7名の女子学生が、「社大探検隊」を結成し原宿校舎の見取図と8ミリのカメラを手に校舎の歴史解明を試みた。翌年2月に読売新聞にその活動が報じられ、東郷神社の宮司らの協力もあり『探検・校舎の歴史 その数奇な運命』と題する資料集(昭和63年11月発行・¥600)とビデオ作品を残した。学生らは、資料に乏しく関係者の殆どが他界している等で不明な点も多く不備をお詫びするとともに新事実があれば一報をと後書きに記した。[社大探検隊 1988]

3 上海事変で爆弾を抱いて鉄条網を破壊した三名の一等兵を1933年2月24日の新聞各紙がその勇敢な大和魂を称えて「爆弾三勇士」とも報道した。

社大探検隊が残した資料集は、原宿校舎本館の間取りと旧海軍館で使われた部屋の位置関係が透かし紙で対比することができ、館内に彫られたレリーフや魚雷のレプリカ⁴等の写真が糊付けされている。興味深いのは、正面ホール階段の踊り場に装飾されていた戦艦「ながと」⁵の他、外庭の“母の像”（アガペ像）が建っている位置に支那事変の空中戦に散った“荒鷲”と呼ばれた南雲少佐の像が在ったと誤表記していた点だ。

南雲少佐は山本五十六⁶の部下で技量すぐれたパイロットだった。人情家だった山本は黒皮装の手帳に戦死した部下の階級、姓名、艦名、戦死の日、戦死の場所、本籍、現住所、遺族の氏名を克明に残した。その手帳の東京府の項には「少佐（従六、勲五功四）南雲茂章 十五空昭和十三、七、十八 南昌空襲（略）」と記されている。南雲が戦死した昭和13（1938）年は、国画会展にこの立像が出品された時期と重なり誤表記されても仕方ない。[山本義正 2001, 126]

2 昭和21（1946）年の創立から数えて65年目、東日本大震災が起きて清瀬のキャンパスも計画停電に翻弄されながらようやく春学期が開始された頃だった。

小平市にある武蔵野美術大学から資料展のチラシが社大の附属図書館に届いた。社大附属図書館は蔵書数25万点を誇る社会事業図書館として知られ、1934年（昭和9）に中央社会事業協会が設置した社会事業研究所図書室の蔵書を引き継ぎ戦前・戦後の貴重資料を豊富に所蔵している。

チラシは平成23（2011）年の夏と秋に催される清水多嘉示⁷資料展の案内（写真3）だった。原宿時代を知る図書館職員は特徴ある窓格子と見覚えある白壁が写ったチラシに驚愕した。なぜなら“制空”の二文字が彫られ無駄な装飾の一切ない台座の上に、雄々しく日本刀を手にした軍人が立像していたからだ。この場所が原宿校舎の庭であることを確信した職員は、清水多嘉示資料展へ足を運びその軍人像の正体に迫るべく距離を縮める。

3 新型コロナウイルスの第5波が収束を見せた令和3（2021）年12月、筆者と既に社大を引退していた元図書館職員の二人は、軍人像の史実を解明するために武蔵野美術大学彫刻学科の黒川弘毅⁸教授と故・清水多嘉示の三女・青山敏子氏を訪れた。清水多嘉示作品は人体をモチーフとしたブロンズ彫刻が多く、美術界に高く評価され全国各地に多数設置されている。関連資料の多くは故郷である原村の八ヶ岳美術館と武蔵野美術大学に収蔵されている。黒川教授は清水作品を研究する第一人者であり青山氏は清水作品を監修する唯一の相続人として、アトリエの対流式ストーブを囲い筆者らを快く出迎えてくれた。軍人像の正体は《海の荒鷲》と呼ばれるブロンズ製の大きな彫刻像で、モチーフのデッサンや石膏像の写真、日記や手紙などの貴重な資料が大切に整理され保管されていた。これらが社大の草創期を探る手がかりとして後世に役立つものと確信した筆者らは、公表の際は改めて許諾を要することを条件に複製デジタルデータを提供してもらうことに成功した。こ

4 魚雷のレプリカは半分に切断され下部が地下室から発見され撮影された。上部は《労芳》の像付近に埋まっていたとも言われる。

5 描かれた軍艦は「長門」といわれるが「三笠」という説もある。

6 山本五十六（やまもと・いそろく、1884-1943）：大日本帝国海軍第26、27代連合艦隊司令長官

7 清水多嘉示（しみず・たかし、1897-1981）：仏留学生中にブールデルに師事し彫刻を学ぶ。帰国後、諏訪にて滞欧作品展を開く。以後、院展、国画会展、春陽会展、文展、日展等に絵画と彫刻を出品。1929年から帝国美術学校（現武蔵野美術大学）の創設に深く関わる。

8 黒川弘毅（くろかわ・ひろたけ、1952-）：清水多嘉示作品の研究者。ブロンズ彫刻の専門家として屋外彫刻の保存にも携わる。

れによって草創期から実に75年以上もの長い間不明だった台座の上に立像していた真実が明らかとなり、社大探検隊の謎を解き明かすことができた。

IV 海の荒鷲

1 《海の荒鷲》像は清水多嘉示によって昭和12(1937)年4月から構想された。5月に海軍館が開館し一般公開となるが財団法人海軍館財産目録にはまだ存在しない。昭和13(1938)年に国画会展に出品され翌昭和14(1939)年に海軍館の前庭に像は設置された。[武蔵美術大学彫刻学科黒川弘毅研究室 2009] 《海の荒鷲》像受領式は昭和14年5月8日の11時に執り行われ、清水を含む関係者16名の記念写真が讀賣新聞社写真部によって撮影された。この写真が後に清水多嘉示資料展のチラシに使われることになった。受領式当日には像の制作費を寄附した中村清七郎⁹の他、山本五十六と海軍中将豊田貞次郎航空本部長に清水は像の説明を丁寧に施した。(写真4)当時の山本は海軍省次官で連合艦隊司令長官に任命される直前で、日独伊三国同盟に反対するなど戦争回避を模索していた。靈南坂¹⁰



(写真3) 清水多嘉示資料展チラシ
提供：武蔵野美術大学彫刻科研究室

の広い洋館にはユーカリの木が立ち、山本は長男・義正が憧れたキャデラックで送迎された頃だった。[山本義正 2001, 71-80]

2 “荒鷲”とは海軍が保有する空母艦載機から飛び立つパイロットの呼び名である。当時「源田サーカス」としてアクロバット飛行で名高かった源田実¹¹が像のモチーフとなった。源田は上海・南京から戻り横須賀海軍航空隊飛行隊長として多忙を極めていたためモデルを務めることは出来なかった。代わりに参考用として源田が写っている写真数枚を昭和13(1938)年3月に清水へ郵送した。源田と体型が似ていた帝国美術学校の井上孟が実際のモデルとして清水に協力することとなった。

《海の荒鷲》の台座は、当初の設計では台座側面に《樫村機》の浮彫を取り付け、かなりの高位置に《海の荒鷲》の像を立てる計画だった。台座左右に荒鷲死者の名を刻もうとしたが面積が不足し、台座正面に頭山満¹²による書「制空」の二文字が彫られ台座はシンプルかつコンパクトな形状となった。[武蔵美術大学彫刻学科黒川弘毅研究室 2009]



(写真4) 像の説明をする清水多嘉示
提供：武蔵野美術大学彫刻科研究室

9 中村清七郎(なかむら・せいしちろう、1872-1948) 現山九株式会社(北九州市)の設立者。

10 アメリカ大使館とホテルオークラの間の坂道、戦前は青々とした木々に囲まれていた。

11 源田実(1904-1989) 海軍軍人、航空自衛官、参議院議員、ブルーインパルスの創設者。

12 頭山満(とうやま・みつる、1855～1944) 福岡出身、国家主義・アジア主義者で知られる運動家。

3 《海の荒鷲》像は残念ながら現存しない。昭和16(1941)年発行の「海軍館大壁画史」に掲載された海軍館全景(写真1)に《海の荒鷲》像は小さく写り込んでいるが、その後の像の行方は不明となっている。

昭和16(1941)年12月8日、山本が立案した真珠湾攻撃が決行され日本は4年近くに及ぶ太平洋戦争に突入した。戦時下では経済は統制され軍需は増強、物価は上昇した。戦況が厳しくなると日用品などの物資も不足し人々の生活は苦しくなっていた。戦争プロパガンダとして街頭に張られた広告やポスター、新聞やラジオなどのメディアからは精神性の強いメッセージが伝えられ洋服や着物は国民服やモンペ姿へ変わっていった。

海軍の零戦記は武勇伝になりがちだが、パイロットが負った心の傷は深く癒えることはなかった。空中戦で撃ち落とされた米軍の戦闘機のパイロットが脱出できずに恐怖にひきつった顔が忘れられず、戦後半世紀経っても夢に見ることがあった。敵のパイロットが反撃せず疲れ切った表情でこちらを見ているだけだったので、それを見たら墮とせなくなったなどの証言もある。[吉田裕 2011, 268-269]

太平洋戦争による社会情勢の変化は、美術の世界にも大きな転換を強いた。商業美術、宣伝美術、さらには鑑賞美術さえも国家の大目的に帰一するため、その技術は必要とされるところに動員されつつあった。工具の生産能率を向上させるため、ある時はまた傷痕軍人を慰問するために病院へ送られた美術品もあった。美術に期待される役割は、国家の要請を民衆に伝え「贅沢は敵」「八紘一字」「堅仁持久」「一汁一菜」などの標語を啓発し、人々を抑揚させ結集させる啓蒙として最も効果的で有効な視覚的手段と化した。[馬場マコト 2010, 7-13]

ブーゲンビル¹³上空で襲撃され山本が戦死した昭和18(1943)年の秋、土浦海軍航空隊に山本の全身銅像が建立されたが、この像もまた行方不明となった。後に占領軍による侮辱を受けることを恐れて上半身と下半身に分離され隠匿されたことが後世で明らかとなる。[公益財団法人海原会 日付不明]

国家総動員による金属供出が全国で行われ昭和19(1944)年10月には渋谷駅のハチ公像もついに出征する。《海の荒鷲》像の喪失時期は昭和18(1943)年から昭和19(1944)年頃と想定され、喪失要因は明らかではないが金属供出によるものと推察される。

連合国軍による東京大空襲¹⁴のうち昭和19(1944)年11月27日に原宿上空に米軍機B29が飛来し無差別に爆弾が投下された時のことだ。東方社¹⁵のカメラマン関口満紀と小山慎吾の二名は、戦災の状況を記録するため爆撃直後の原宿駅、東郷神社、海軍館を撮影した。この記録によると海軍館には二発の爆弾が投下され、一発は建物三階を貫通し二階で爆発した。もう一発は植込内に落下し死者1名と傷者1名を出した。小山は海軍館の大理石の爆撃によるブロック損傷と、“制空”の二文字が刻まれた台座を撮影した。(写真5)¹⁶ [N. 山辺昌彦 2012] 惨事の直後に撮られた台座の上には《海の荒鷲》は立像していない。爆撃により吹き飛んだ可能性も否定できないが、銅像と台座を接合する骨組みの破片すら映っていないことから爆撃時は既に台座のみの状態だったのでないかと推定される。《海の荒鷲》像はいったいどこへ消え、どのように台座と別れ離れになったのだろうか。支えるものを失った台座は「制空」の碑と呼ばれ、長きにわたり縁組を待つことになる。

13 日本軍が占領したパプアニューギニアの島

14 1944年11月24日から1945年8月15日の終戦まで空襲は続いた。

15 陸軍参謀本部直属の出版会社として対外宣伝誌「FRONT」を創刊し戦況を記録した。

16 公益財団法人政治経済研究所付属東京大空襲・戦災資料センターの協力により使用許可を得ている。



(写真5)「制空」の碑
提供：東京大空襲・戦災資料センター

V 進駐の覚醒

1 昭和20(1945)年8月30日に横浜港へ接岸された司令艦「スタージョン号」から降りたサムス¹⁷は、横浜税関ビルの建物が奇妙に感じた。それは階段の鉄製の手すりや支柱の金属類がまったく取り除かれていたからである。[C.F.サムス 2007, 21]

サムスは焼け残った煉瓦やコンクリートビル、どこまでも続く灰、崩壊した公衆浴場の煙突、関東大震災の教訓により民家が備えていた金庫の残骸、焼けただれた市電や自転車などを目にした後、米太平洋陸軍前進総司令部が置かれることになっていた横浜税関ビルに入り足置き付きの椅子に座り一息ついた。すると足首に蚊の大群が群がり血を吸われた。占領軍が使用する建物は予め DDT¹⁸を散布することとした。後に DDT は飛行機から白煙のごとく大量散布され、蚊やその他の害虫駆除のために人体には

支障はないと予め通達されたが回覧板の内容が不親切なため市民に不安が広がった。DDT 散布は感染症の抑制などに大きな成果を挙げたが、残留毒性は1970年代に入り問題となった。

2 サムスに課せられた調査は、予め想定した日本の死傷者や傷病兵の数の差異を把握し、医療品・食糧・衣料・毛布などの救済物資をアメリカ本国へ要求することだった。微々たる医療施設や医療人材、焦土と化した日本の貧弱な保健衛生の状況を目の当たりにした彼は、その後の日本の看護や福祉の教育、公衆衛生の発展に大きな影響を及ぼす存在となるとは想像もしなかった。

昭和20(1945)年9月17日、前進総司令部は横浜税関ビルから東京の第一生命ビル¹⁹へ移る。10月2日に連合国最高司令官総司令部(SCAP/GHQ)が設置されるとサムスはGHQ公衆衛生福祉局長へ任命された。ネズミが走り回る帝国ホテル²⁰に住み第一生命ビルの一階のオフィスに通う。各地の病院を調査し利用できる施設は次々に接収した。上野駅の地下道で横たわる男女や子どもの間を縫って歩きながら、天然痘・腸チフス・赤痢・発症チフスを患った多くの人々を目撃し、食糧や身内を求めに人々が全国に移動することで感染症が蔓延することを危惧した。[C.F.サムス 2007, 56-65]

GHQにはニューディーラーと呼ばれる大胆な政策や敬明な思想をもった人たちがいた。日本の占領初期と後期ではGHQ内部で方針に違いを見せるようになり、昭和23(1948)年には日本の民主化をソ連・中国に対抗する目的として活用され、アメリカ民主主義の価値や占領政策の正当性、アメリカ保健医療福祉の絶対

17 クロフォード・F・サムス (Crawford F.Sams, 1902-1994) : 1945年10月～1951年5月までGHQの公衆衛生福祉局長として活躍した軍医。

18 ジクロロジフェニルトリクロロエタンの略、P.H. ミュラーが発明した有機塩素系殺虫剤・農薬。

19 GHQ庁舎が置かれた第一生命ビルにはマッカーサー元帥へ送られた国民からの手紙が大量に届けられ、すべて翻訳・整理されて世論の把握や占領政策の評価とされた。[蟻塚昌克 2009, 30]

20 1890年に日本初の迎賓館として開業。設立発起人のうち渋沢栄一が初代会長だった。

的優位性のアピールといった冷戦体制を意識するものとなった。[蟻塚昌克 2009, 83 - 85]

対日占領政策の意思決定に関わったベネディクト²¹は、日本では個人にかかる社会的圧力が非常に大きいから、国民が自分の生き方を選び自身の良心に頼るよう奨励しなければならない。西洋流のイデオロギーの基盤よりも民主主義の解釈を土台にしたほうが、市民の自由の領域を拡大し国民の福祉を確立することが容易になると分析していた。[ルーズ・ベネディクト 2008]

3 燃えやすい木造家屋が密集していた東京下町は、昭和 20 (1945) 年 3 月 10 日の東京大空襲の無差別な爆弾投下によって罹災家屋約 27 万戸、罹災者約 100 万人と被害は甚大だった。住居や財産を失った人々は防空壕やビルの地下へ身を隠した。やがて消失家屋の跡地には、焼けたトタン板を寄せ集めて屋根にしたバラックや防空壕に蓋をした壕舎²²で簡易生活をする人々がいた。

終戦後は軍需工場からたくさん失業者が放出され、徴用解除や復員兵、疎開先からの帰京する人、家財道具を背負い食糧を求めて東京を離れる人、帰還した戦傷兵や傷痍軍人、親を失って言葉も発することもできずに空腹に嘆く戦争孤児などで上野駅はごった返していた。物価は高騰しヤミ市や売春などが横行した。飢餓や疾病、食糧の欠乏、住宅の不足、失業、衛生問題は深刻で顕在化していた。[蟻塚昌克 2009, 31-42]

サムス率いる GHQ 公衆衛生福祉局 (PHW) は占領初期から多岐にわたる制度改革や緊急措置を実施し、米軍が撤退した後も日本人自ら

の手によって定着するプログラムの基礎を築いた。昭和 20 (1945) 年の秋から昭和 21 (1946) 年の春にかけては、広島・長崎の原子爆弾の効果を調査するために来日する多くの科学者の掌握や ABCC²³ 設置などにも奮闘した。食糧供給体制の確保や学校給食による栄養状態の改善、伝染病に対するワクチン、抗生物質、新薬などの輸入及び国内製造拠点の整備、環境衛生に関する訓練を受けた専門家を全国に散りばめ井戸の消毒や衛生知識の普及に効果を上げた。地方自治体レベルで公衆衛生を実施する組織づくりを整備し全国に保健所が設置された。医療制度の刷新や医学・看護教育による専門人材の早急な確保、製薬・医薬品産業の復興など幅広い改革は、サムスと日本人の官僚らによって激しく衝突しながらも着実に具現化されていった。[C.F. サムス 2007, 87-251]

IV 接收の時

1 昭和 21 (1946) 年 12 月の寒い日、サムス准将から電話で呼ばれ「これから渋谷の方面へ行くのでついてこい」と行き着いた先が海軍館だった。サムス准将は軍服にマントを纏い、中をみないで「これはいい、directive (指令) で取ろう」と言ったことを葛西嘉資²⁴ は覚えている。同 12 月に制定された生活保護法に間に合わせるために 11 月 9 日に社会事業学校が牛込原町に創立²⁵ したばかりだ。すでに安田巖 (当時の厚生省社会局庶務課長) が米軍のジープに乗せられ建物を物色した末、たどり着いた先は次の春までに専門学校としての養成教育がはじまる。葛西は「そうすれば全部国有財産になる、

21 米文化人類学者で来日経験なく日本人の行動パターンを鋭く分析し『菊と刀』を 1946 年に出版した。

22 標準的な壕舎は 1.5m ほど掘り下げた材木で組んだ上に土を載せただけの夏は高温多湿で冬は冷蔵庫のような劣悪環境だった。

23 米学術会議のもとに設置された原爆傷害調査委員会。

24 葛西嘉資 (かさい・よしすけ、1906-2001) 占領当時は厚生省社会局長・日本社会事業学校初代校長。

25 社大創立記念日の 39 年前の 1907 年 11 月 9 日に中央慈善協会の第一回発起人会が日本橋の銀行集会所で催され窪田静太郎による司会進行のもと渋谷栄一が開会の辞を述べた。

サムスが宣言するのを聞きに行っただけ。』[日本社会事業大学社会事業研究所 2004] と証言する。

牛込原町の今にも崩れんばかりの仮小屋校舎に講義にきた当時の占領軍福祉係官ドナルド・ウィルソン²⁶が、これは余りにもひどすぎると考え都内を走りまわって校舎に相応しい建物を物色し見つけてくれたのが元海軍館の校舎であると仲村優一²⁷は社大の草創期を振り返っている。[四十年史刊行委員会 1986, 298]

2 海軍館の近所に住んでいた家城は、建物が米軍に接収された時の私生活を著書に記している。「門の側には、いつも M・P²⁸が立っていました。弟をはじめ、近くの男の子たちが、そのアメリカ兵に声をかけたのが『ギブ ミー チョコレート』でした。当時は、食糧難で、栄養失調になった子どもたちが、最初に覚えた英語が『ギブ ミー チョコレート』であったそのことは、今でも語り草です。この宿舎にいた独身のアメリカ兵の一人が私の家に遊びに来るようになりました。姉がちょうど年ごろで、それがお目当てでしたが、英語がちょっと話せた私は、二人の間の通訳係でした。たどたどした英語ながらどうにか通じた時の嬉しさ、英語をもっと勉強したいと思ったものでした。」(2002: 132-133) [家城定子 2002, 132-133]

ジープに乗った米兵には日本語を流暢に話す日系二世もいた。子どもたちの頭にシラミを見つけた米兵は躊躇することなく DDT を頭に振りかけた。家族や親族に守られ生き残った原宿周辺の子らは、昭和 21 年 4 月から晴れの日に限り屋根の崩れたままの学校へ通いはじめた。[雨宮央樹 2000]

3 昭和 21 (1946) 年 3 月財団法人海軍館は解散し、財団法人海洋博物館(文部省の認可)が海軍館の土地・建物の資産を譲り受ける。12 月進駐軍の宿舎とするため米軍第 8 軍が接収という記録もあるが、第 8 軍が断ったために GHQ 公衆衛生福祉局 (PHW) が厚生省社会局の松本征二事務官と交渉したという記録もある。[日本社会事業大学社会事業研究所 2004] ちなみに第 8 軍司令部は、廃止された日本帝国陸・海・空軍の軍用資材の破棄に直接関係していた。[C.F. サムス 2007, 80] 旧海軍館の展示品などは海洋博物館として再び人目に触れるはずだったが、昭和 21 (1946) 年 12 月 9 日に GHQ により接収され、最後の海軍館主事だった浅野千之介が退去命令に基づき館内の後始末に関わった。接収後は米軍のダンスパーティなどが催された。旧海軍館が保有していた蔵書約 2 千冊は、米国メリーランド大学のプランゲ文庫²⁹に保存されている。[武蔵美術大学彫刻学科黒川弘毅研究室 2009, 256]

GHQ や厚生省関係者は、文部省の管轄するいわゆる大学教育ではなく実務従事者の養成に並々ならぬ拘りを貫き通す。旧海軍に属した海軍館を校舎として使用するため財団法人海洋博物館となっていた旧海軍館を GHQ によって接収し国有財産とする。そのうえで厚生省が社会事業諸団体の共同利用施設として社会事業会館を設けるという手続きをとった。

具体的には昭和 22 (1947) 11 月に学校の用途に供するため、厚生大臣から連合軍総司令官宛に海洋博物館(旧海軍館)の接収解除並びに使用許可を申請し、厚生省に使用させる了解のもとに 12 月に GHQ が接収解除、附属物件の接収解除は昭和 23 年 3 月、財産は政府の接収

26 Donald V. Wilson (1910-2003) 第 8 軍司令部軍政局福祉部長、国際肢体不自由者福祉協会(1948) 初代事務局長。1948 年に名誉教授の称号を授与したと『たけおか第 49 号』(2003.7.1) に記録がある。

27 木村忠二郎は行政出身の学長を自分の代で終結し後任に日本社会事業学校研究科出身の仲村優一(なかむら・ゆういち、1921-2015)を選んだ。[吉田久一 1981] 仲村は第 3 代学長・第 3 代校長、名誉教授。

28 ミリタリー・ポリスの略、米陸軍憲兵でジープに乗り主に治安維持や交通整理の任務にあたった。

29 占領下 1945 ~ 1949 年の発行物を当時検閲官だったゴードン W. プランゲ博士がコレクションしたもの。

保管となり国庫に帰属することとなった。

日本社会事業専門学校は形式的には昭和 22 (1947) 年 3 月 31 日に設置が条件つきに認可され、中央社会事業協会と日本社会事業連盟を統合して発足した日本社会事業協会が 4 月 1 日から国庫補助を受けて運営することになった。

専門学校が実際に牛込原町から移転を完了したのは GHQ 了解のもと昭和 23 (1948) 年 1 月 14 日だった。1 月 30 日付「舊海軍館の使用に関する件」(社発一四一号)の厚生省通知によれば、共同で社会事業会館を使用する団体は当面、日本社会事業協会、全日本民生委員連名、日本社会事業専門学校であるが日本社会事業学校の優先使用と将来専門学校が昇格拡大の必要があるときは他の使用団体は提供を考慮することなどが示された。[五十年史刊行企画 1996, 45]

昭和 23 (1948) 年 10 月、大阪社会事業協会を経営主体とする大阪社会事業学校が日本社会事業専門学校の分校として設立した。後に大阪府立大阪社会事業短期大学として分離し大阪府立大学社会福祉学部の前身となった。[五十年史刊行企画 1996, 60]

学校教育法の制定を機に昭和 25 (1950) 年 3 月、日本社会事業専門学校が廃止され新たに日本社会事業短期大学が 4 月に発足した。昭和

26 (1951) 年 3 月には学校法人日本社会事業学校が認可され、各種学校としての日本社会事業学校研究科を設立、4 月に夜間部(専修科)も開設された。短期大学を有する学校法人としての制度的、物理的な条件整備に全力をあげることとなる。[五十年史刊行企画 1996, 64]

Ⅶ 歴史を塗り替える

日本社会事業短期大学の教育に相応しい校舎とは如何なるものか、旧海軍館の軍事色の残る建物の内外をリフォームする必要があったと推察できる。過去の歴史を塗り替えることは容易ではなかったはずである。真っ白のキャンパスに描くのは責任の重みが異なっただであろう。人々の心情に触れ対立する要素を再構成する作業には時間もかかる。現実に関心を逸らすことなく建物の用途や目的に叶い、その寛容さをもって時代の不条理や曖昧さを柔軟に表現する、そのような息吹を包含した采配に呼応する適任は誰か。平和で恒久的な誰からも愛される作品を校舎に忍ばせるには有徳の人でなければならなかった。そこには優れた政治家と一人の彫刻家の存在が深く関わっている。



(写真6) 開校1周年記念式典 GHQ サムス大佐の来賓祝辞
出典：『日本社会事業大学四十年史』
[四十年史刊行委員会 1986]

1 灘尾弘吉³⁰は内務及び厚生官僚として福祉・社会保障分野を歩み、民間の社会事業に国が一定の補助をする社会事業法³¹などを手掛けた。それまで善意の慈善事業に依拠し、公の責任を放置し陥った窮状から脱却し、助成と規制という表裏一体の論理で私的社會事業に国が関与していく画期的な社会事業法は、公私関係の起点かつ社会福祉法人制度の淵源となった。[蟻塚昌克 2009, 10-11]

民間社会事業への助成が認められた背景には、社会事業の名を借りて浮浪児を搾取し強制労働させる非道や、寄付と称する詐欺強要、社会事業を隠れ蓑とする犯罪や偽善が社会事業に対する信頼と感心を低下させ誤解や曲解を招くことを封じる期待もあった。[蟻塚昌克 2009, 12-22] 社大の校歌にある「社会の福祉誰が任ぞ」が言わんとする由縁とも推察される。

灘尾は大分県知事などを経て、昭和 20 (1945) 年 4 月に 45 歳で内務次官、終戦後の昭和 22 (1947) 年 11 月に公職追放となった。旧友の大塚惟精³²は中国地方総監に任命され広島へ赴任する前「灘尾君、最後のご奉公と思って頑張ってくるよ」と言い残し 8 月 6 日に原爆の犠牲となった。15 日の玉音放送を聞いて灘尾は内務省職員を率いて皇居に深々と頭を下げた。東久邇宮内閣が 17 日に発足し、灘尾は内務次官の辞表を提出して退官し浪人の身となった。[安藤俊裕 2012]

間もなくして灘尾の旧友だった木村忠二郎³³は、彫刻家の渡辺義知を灘尾に引き合わせた。渡辺の並々ならぬ芸術性は奔走する灘尾の心を癒した。昭和 27 (1952) 年、灘尾は衆議院議員に当選。政界に入った灘尾に対して渡辺は毎年

色紙に描いた絵と言葉で励まし続けた。その一つに灰色で横に一筆、その上に青で一筆「陸の向こうに海がある」と書いた色紙は灘尾の心を明るく灯すものだった。昭和 31 (1956) 年に石橋湛山内閣で文部大臣、昭和 36 (1961) 年の第 3 次池田勇人内閣で厚生大臣へ就任する。昭和 54 (1979) 年には衆議院議長へ登りつめ昭和 58 (1983) 年に政界を引退、平成 6 (1994) 年 1 月 22 日 94 歳でこの世を去った。偉大な功績は全国社会福祉協議会が入る新霞が関ビル地下階の「灘尾ホール」としてその名を遺した。

社大四十周年に寄せて灘尾弘吉は「かねがね私の人生、とりわけ官界生活における故郷は、厚生省社会局であり、私のライフワークといえるものがあるとすれば、それは日本の社会福祉の前進に微力を捧げることだと思い込んでいる。このような体験を積み重ねるなかで、何時の間にか私の胸に刻み込まれ、確信となっていたものに『社会福祉活動の基礎は、人間である』という一事がある。制度も、予算も、施設も極めて貧弱な戦前・戦後、放置し得ない老人・障害者や子ども達のために粉骨砕身して下さった民間社会事業界の先駆者の人々。戦後四十年、わが国社会福祉活動の草創、発展の過程で黙々と声なき人々のために活動を続けられて来られた社会福祉関係者の真摯な姿に心打たれることの何と多かつたことか。そして、その多くが、戦前の社会事業研究生であったり、戦後、牛込や原宿の日本社会事業学校で時に『現任訓練』や『インサービストレーニング』を受け、学んだ人々であったように思う。社会福祉は、人が人に対して必要な援助を提供するところに特質があるといわれる。二十一世紀社会は、多

30 灘尾弘吉 (なだお・こうきち、1899-1994) 広島生まれ。官僚として福祉行政ポストを歴任し政治家としても社会事業に深く携わる。全国社会福祉協議会会長 (1959 年 5 月～1987 年 5 月) や日本身体障害者団体連合会会長なども務める。

31 昭和 26 (1951) 年施行。平成 12 (2000) 年に「社会福祉法」に改名。

32 大塚惟精 (おおつかいせい、1884-1945) 内務官僚、栃木・福岡・石川・広島 of 各県知事を歴任。

33 木村忠二郎 (きむら・ちゅうじろう、1907-1978) 内務・厚生官僚を経て厚生事務次官、学校法人日本社会事業学校第 3 代理事長・第 2 代学長。

様な社会問題や複雑な問題行動をもつ人々を大量に生み出すにちがいない。そして、それに立ち向かう社会福祉人もまた多様で高度な専門技術と確固たる社会福祉倫理を兼ね備えた専門家ではなくてはなるまい。幸い、日本社会事業大学は、創立四十周年を期して新キャンパスへの発展計画を推進されるという。願わくば戦後日本の社会福祉人を教育ててきた伝統を活かして二十一世紀の社会福祉専門従事者の教育養成に一層の貢献を祈念してやまない。」とメッセージを残している。[四十年史刊行委員会 1986, 309-310]

- 2 昭和 25 (1950) 年に日本社会事業専門学校が日本社会事業短期大学となったのを機に、学生と教職員は校歌を作ろうと相談をはじめ。もちろん財政的な余裕はなかったため有名人に作詞・作曲を発注することも叶わなかった。

校 歌

作詞 佐伯仁三郎

作曲 木田みさを

1. 空の茜を先立てて 都の乾 花照らう
丘も名ゆかし代々木台 伝統の栄 われ踏みて
呼ぶや思潮の暁の声 社大 社大 おお われら
2. 孤独、敗残、途に哭き わが世 餓学の野となれば
社会の福祉誰が任ぞ 忘我の愛と智の灯
捧げん世紀来たりけり 社大 社大 おお われら
3. 自由の鐘の鳴るところ 友愛の丘 月澄めり
汚濁 貪婪すさび世に 睦ぶ久遠の夢一つ
われらは茲に結ぶなり 社大 社大 おお われら
4. 焦土の果に誓えれば 再び見まじ苦艱の日
冷たき 熱き争いの 上なる平和憧れて
行くは民主の道直ぐに 社大 社大 おお われら

このとき同居していた中央共同募金委員会に嘱託職員として勤務していた歌人・国文学者の佐伯仁三郎に社大の校歌は作詞してもらった。作曲は教授で学監だった木田徹郎の娘・みさをが東京芸術大学作曲科に在籍中に作った。[仲村優一 1996, 30-31] この時期の呼称「社大」が校歌の歌詞に入れられたことで、愛校心は大切に育まれ今日に至るまで教職員や学生らは「社大」と呼称するようになった。朝鮮戦争が勃発し「とんでもハッペン」などの言葉や社交ダンスやワルツが流行した頃だった。

昭和 21 (1946) 年に社大と同じくサマスの手によって看護の専門教育機関として発展を遂げた現日本赤十字看護大学の校歌『愛のともし火』(昭和 31 (1956) 年制作) にも「人類の 平和願いて 博愛の 精神を胸に 炎の中も ほほえみ住かむ 救助を求むる 声を聞かば ああ赤十字 吾らは進むは 年にして」と勇敢な使命感を感じ取ることができる。

- 3 旧海軍館の玄関ホール階段を昇った先の壁には軍艦の絵画が飾られていた (写真7)。[財団法人東亜振興会 1941] この壁面こそ渡辺が社大に残した初の作品《社会事業》の大型レリーフ (写真8) が飾られた場所だ。社会事業に対して抱く抽象的な概念を渡辺は、子どもを抱える女、果物に手をだす子ども、果物を差し出す女子、布、建物、果物、衣食住、鳩、椿の花、泉、大小の歯車といった素材を浮彫として造形に表した。下の位置に描かれた歯車は、子どもや母子が協力を語りあうイメージが込められている。右上方には「JULY 1948」と彫られている。

日本社会事業専門学校は本館一階の大部分、二階他は財団法人日本社会事業協会、財団法人全日本民生委員連名、並びに財団法人社会事業会館が入居した。

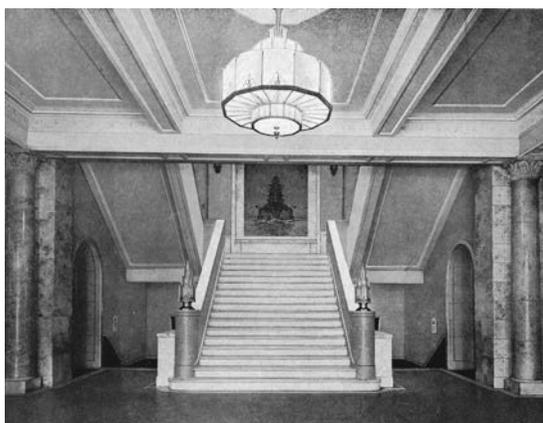
昭和 23 (1948) 年 7 月 18 日、中央社会館³⁴の開館式が催された。祝辞は 1 厚生大臣、2 総

34 中央社会館 (旧海軍館) の建物管理は厚生省から社会事業会館へ委託され 1948 年 3 月から 1958 年 10 月に社会事業会館が千代田区の新会館へ移転するまで続いた。

司令部、3 東京都知事、4 社会事業界代表と記されている。

華やかな来賓に囲まれ開館した中央社会館は、日本社会事業短期大学、中央社会福祉協議会、中央共同募金委員会、全日本民生委員連名及び社会事業会館が共同利用した。[渡邊義知 2011]

木村忠二郎から頼まれて《社会事業》のレリーフを制作したコンセプトについて詳しく渡辺の言葉が残っている。(原文を尊重して旧漢字等はそのままとした)



(写真7) 壁に飾られた軍艦の絵画
出典：『海軍館大壁画史』
[財団法人東亜振興会 1941]



(写真8) 《社会事業》レリーフ
写真所蔵：日本社会事業大学

中央社会館の壁面浮彫に就て

渡邊 義知

中央社会館は、社会事業の會館であり、また社会事業専門學校もあるから、それに就て何か制作して欲しいと、木村先生から、彫塑二科會にお話があった。與えられた主題は、「社会事業」その壁面は、二階への階段正面の、一ヶ所だけであるので、社会事業なるものの、具体的な或一つの場面とか、または、いろいろな状態を、造形的に、表現したとしても、いわゆる社会事業といふものが、廣範な性質と、状態をもつものであるが故に、壁面に表現された、ただそれだけの、社会事業に限定し、見られる恐れがあるし、そうかといって、個人として、立派な社会事業性の上に起つて、至高な人間性を、社会の福祉のために寄與された、数々の偉大な人達の肖像とか、または、その場面なども、よきモチーフでは、あるのであるが、例へば、二三の例を挙げるとすれば、廣蟲のごとく、光明皇后のごとく、二宮尊徳のごとく、ヘレンケラー女子のごとく、またフラガナン師のごとく、等々、あるにはあるが、これ等はまた、別な場所を與えられた時のことにして、會館のセンターであるあの壁面は、芸術的に、社会事業性の、本源となる、愛と秩序の觀念を、美的にエッセンスして象徴し、造形的に表現した訳であります。

社会事業とは！ それは、その本質に於て、いわゆる会社事業のごとく、即ち利潤追求の目的とは、その倫理性の上に、大きな差異があり、また、慈善事業、とも異なった、社会の上にオリジナリテをもった、社会事業性の数多の、健康な、新しき場、なるものを思ふ時、殊に今日の混迷した、社会相の上に、眞の平和国家、高度な文化日本を、再建するためには、眞の、社会事業の充全な成果に困ってこそ、はじめて、文化国家の名に價ひする、清潔日本の、明朗な、秩序の美、を感ずることが、出来るのではないかと、社会事業なるものを解してゐる次第です。

故にあの壁面に於て、社会事業なるものの、状態を表現することも必要ではあるけれど、造形美術の本来の面白さは、逆に、何の意味ももたなかつ

たとしても、ただ美しいものを置いただけでも、人々の見る感受性や、イメージネーションの如何によつては、造形美術本来の役目を果たすことも出来る訳ですが、兎に角、音楽芸術、絵画芸術、文学、と違った彫塑美術の見方も、いろいろありますが、かうした條件に於てはまづ眼に觸れた心よさも、特にかうした室内の或る一定の場に於ては、一つの重要な條件であり、殊に、人間の為すべき幾多の仕事のうちでも、社会事業といふ、もっとも高貴な仕事にたずさはる人達の、日常この壁面に接せられることを思うと、彫塑といふ立体美術の言葉をもつて、社会事業といふ敬虔な本質的な内容だけを、あの壁面へわれわれは、彫塑家としての、芸術心に於て、刻みつけた訳です。

そこで、壁面の中央に、子供を抱く女性を布置させました。それは献身的な愛のかたちを、母性にとりたかつたのです。だが何故、母親でなくて、お下げ髪の處女、にしたかと申しますと、それは、尊い母性である女性の上に、尚ほもう一つ神性（デイヴィニテ）を、つけくわへたかつたのです。何故なら、社会事業である。本源の心の在り方の上には、自分の産んだ子供だけに対する愛情と、行爲、だけでなく、社会の子供達に対しても、等しく、一切が行なはれるには、人間の本能の上に、もう一つ神性（デイヴィニテ）への希求が必要だからです。何故なら、眞の、社会事業こそ、さういふ意味で宗教的であり、芸術的であり、哲學的であり、科學的であり、豊饒な感性と、高度な理想と、そして然も現実的で合理的な、聰明な知性と、尚ほ且つ逞しき行動力をもつ人間性の、それこそ、社会事業家の、その組織の上に起つた本来の姿だと、思ふが故にであります。

だが彫塑の言葉では、文學と違つてそこまで表現は出来ません。これはどこかで、或は何かで感じていただくよりしかたがありません。それから、壁面に布置され、構成された、子供達、布、建物、果物の夜食住、鳩、椿の花、泉、それから大小の齒車、即ちこれ等を、素材として、社会事業とい

ふ、觀念を、浮彫として、造形した訳です。ですから、子供を抱く處女、果物に手をさしだす子供、果物をさしだす女子、齒車によつて協力協力を語りあふ子供達、それ等は、いわゆる自然の感覺美の表現ではなく、一つの觀念の素材として、使はれ、統合されそして独立した一つの存在となつた。形として見ていただきたいと思ひます。即ちそれは具体を抽象したものでなく、抽象を具体したものであります。

(1948.7. 18)

制作者、彫塑二科会々員

《ABC 順》林 是 西田明央

木村威夫 渡辺義知

松村時次郎 八柳恭次

[渡邊義知 2011]

VIII 在野を貫く

1 渡辺義知は明治 22 (1889) 年 4 月に木版工の子として銀座に生まれた。幼いころに両親が他界してしまったため子煩悩な知人に引き取られ深川で育つた。台東区の宝石珊瑚の輸出販売所で、青年期は月に二、三個の珊瑚を刻み稼いだ生活費は読書に充てた。大正 12 (1923) 年 34 歳で日本美術学校へ入学、ギリシャ彫刻に触れ古典的な秩序を基部に据え彫刻を究めた。彫刻部ができたばかりの二科会³⁵に出品し樗牛賞、二科賞を受賞し昭和 5 (1930) 年二科会員となる。昭和 7 (1932) 年に念願だったフランスへ渡りブルデル作品に接する。記念碑や記念像といったモニュメント彫刻に深く感銘を受けて帰国後、昭和 9 (1934) 年から 17 (1942) 年にかけて 11 作品群の《国土を護る》を精力的に発表した。《国土を護る》は《空》、《海》、《航空頌》、《鉄兜》、《紀元 2600 年頃》、《大東亜旗》、《旗》、《日本刀》、《征く》と各々に題名が付され、勇ましく力強い男性をモチーフとした作品群である。

35 二科会は大正 3 (1914) 年新傾向を目指す洋画家が文展を離脱して結成した美術団体。

これらは昭和（1932）7年8月に時の内田康哉外相が、満州国承認を強行するため「国を焦土にしても譲らない」と議会で答弁したことに渡辺は大きな衝撃を受け、日本が焦土と化してなるものかと執心し祖国愛を込め連作したものである。

渡辺は小柄だったが大柄な作品を好んで制作したため買い手がつかず、材料費もかさみ資金が追い付かずセメントを多用した。洋画家の妻との間に二男一女をもうけた。

芸術一筋で純粋で情熱をもった渡辺は、ロダンに師事した藤川勇造³⁶が昭和10（1935）年に他界してから二科会彫刻部の中心的な立場にあった。一貫して彼の持論は「在野でなくては芸術が育たない」だった。在野とは公職でなく民間として活動することに誇りをもつ二科会の伝統だった文展（文部省美術展覧会・現日展）・帝展といった官製から離脱し民間の新しい気風を目指した美術団体の流れである。二科会規約第一条「文展には絶対に参加せず」の盟約を渡辺が純粋に守るが故に、昭和10（1935）年に松田源治文相が在野二科の美術家を帝展の審査員へ加えたこと（いわゆる松田改組）をきっかけに美術団体の大きな対立の渦に巻き込まれる。戦火による相次ぐ展覧会の中止や戦後の混乱を経た後、二科会統合による日展参加の動きの渦中、渡辺は同意なく二科を除名されることになった。昭和33（1958）年に日展が民営化されると渡辺もようやく日展招待出品に応じる決意を固めて対立の過去を清算するに至った。[黒木利克 1969]

渡辺の末子である巖³⁷は「芸術作品の審査制度に疑問を持つ父は、戦後は美術団体に所属しなかった。この決心は、経済的見地からはほとんど自殺行為に等しいと思われるが、文部大臣を最後に政界を退いた灘尾弘吉先生が彫刻の注

文を探して（というより、注文をつくって）くださった。このパトロンの役割は灘尾先生の後輩に次々と受け継がれた。」と記している。[渡邊巖 2009, 207]

誰もが生きるのに大変な時代だったに違いない。黒木利克³⁸は渡辺の彫刻に用いる材料の調達に付き添い青銅などの価格を交渉し対価を支払った。渡辺の制作に対する謝礼を支払う際、月の生計費を除いて一切受け取らないと渡辺は言い放った。[黒木利克 1969]

2 昭和33（1958）年4月に日本社会事業短期大学は日本社会事業大学へ移行する。厚生省の委託に基づき学校法人日本社会事業学校（学校法人日本社会事業大学へ法人名の改称は昭和37（1962）年4月）が原宿校舎の土地・建物を管理することになる。大学の設置認可には専任教員数の他、校舎の面積や教育研究を適切に遂行するために相応しい運営の仕組みを有することが必須であった。

ロカビリーやフラフープ、インスタントラーメンが流行り、東京タワーが完成した高度経済成長期を象徴する時代だった。学部三期の杉村宏は「外苑中学校に在学していた頃は、社大の構内はくまなく知っているつもりでいた。物置きに放置されていた戦艦模型、屋上にそびえていて都心を一望できる潜望鏡、爆弾三勇士の破壊された像そして学生会館裏手からグラウンドの地下全体に広がる大防空壕等々、建物全体が軍国主義日本の遺構そのものであり、腕白盛りにはかっこうの遊び場であったが、まさかその建物の内から、戦後日本の社会福祉の優秀な担い手が巣立っていったとは、全く知らなかった」と記している。[四十年史刊行委員会 1986, 170]

旧海軍館だった原宿校舎の庭にあった魚雷模

36 藤川勇造（ふじかわ・ゆうぞう、1883-1935）大正から昭和初期の彫刻家。

37 渡辺巖（わたなべ・いわお、1938）元農水省技官、ナイジェリアや台湾などの国際機関で発展途上国農業支援のための研究と農業技術情報の普及活動に携わった。

38 黒木利克（くろき・としかつ、1913-1978）厚生官僚、児童家庭局長、参議院議員。

型は昭和 33（1958）年に東郷神社敷地内に移設され石碑の説明とともに軍事遺物として祀られた。

大学校舎として設置認可を受けるためには校舎を高等教育機関の場として相応しい環境にするため更にリフォームする必要があった。昭和 33（1958）年、《社会事業》のレリーフに続いて歴史を塗り替える仕事を再び受けた渡辺は 69 歳になっていた。

これが《励労》の像である（写真 9）。正門の側に装飾されていた《肉弾三勇士》と思われる像³⁹があった壁面の模様替えとなった大型の作品である。5 m を超える壁の上端部には大海の波をイメージした細工をそのまま残したとされる。壁に刻まれた何かの文字をコンクリートで埋められた跡があるとも社大探検隊が記録している。《肉弾三勇士》の像が戦後に壊され、平和を祈る男女の立像に変わったことを近所の家城は覚えている。[家城定子, 2002]

大きなモニュメントが好きな渡辺は、ハンマーやノミを握る重労働も多く腕関節にリウマチを患い体力の衰えを感じていた。大学生になった次男・巖は荒彫りなどの作業を手伝った。孤独な幼少期を過ごした渡辺が大切にしていたのは温かい家族をつくることだった。チャップリン⁴⁰やキートンが好きで末子の巖を映画に誘うこともあった。年をとってからの子と一緒に作業する時間は幸せだった。成人したばかりの息子に「仕事というものは自分でやってもうまくいかない場合があるのだから、他人に頼んだ場合は、結果が不満足であっても決して不満に感じてはいけない」「仕事中に発生する音はどんなにうるさくても、騒音と感じてはならない」などと教え諭した。[渡邊巖 2009, 204-205]



（写真 9）《励労》と渡辺義知
出典：『日本社会事業大学五十年史』
[五十年史刊行企画 1996]

3 昭和 34（1959）年には息子の巖を伴い寝台車で灘尾の故郷である広島を旅した。この年は第 5 回原水爆禁止世界大会が広島で開催され平和記念式典の参加者は 3 万人に達した。渡辺は広島赤十字病院に《原爆殉職者慰霊碑》や《永代御霊供養像》の作品を残した。[渡邊巖 2009, 205] 渡辺の目に広島はどのように映っただろうか。人類史上初の原子爆弾投下によって約 14 万の命⁴¹が奪われ、多くの人が爆風や放射能を浴び犠牲となった。焼け爛れた彷徨う人々、子を抱きながら焼け死んだ母親の御霊、黒い雨に打たれ長く苦しむ人々たち、肉親を失いながらも医療や消防、復興や人命救助に奮闘した人たちの渴望に触れた渡辺は、その後の制作に生と死に向けた感性を震わすことになっていく。

広島赤十字病院の前身である日本赤十字社広島支部病院は、昭和 20（1945）年 8 月 6 日の原子爆弾投下によって甚大な被害を受けるも、その極限状態の下でも一人でも多くの被爆者の

39 三勇士人気に便乗した菓子のおまけやデザインなども流行したが、海軍館入口に陸軍の英雄が飾られる不自然さも残る。

40 チャールズ・チャップリン、バスター・キートン、ハロルド・ロイドはサイレント映画の三大喜劇王。

41 広島市による 1945 年 12 月末までに亡くなった推計数である。

命を救うことに賢明に取り組んだ。《原爆殉職職員慰霊碑》の除幕式及び広島赤十字病院開設20周年記念式典は、昭和34（1959）年12月に挙行され秩父宮妃殿下が臨席し翌年の8月6日には皇太子殿下が慰問した。[日本赤十字社2019]

社大の源流を語れば、明治41（1908）年10月7日に渋沢栄一が初代会長として発足した中央慈善協会に遡る。「一 内外国に於ける慈善救済事業の方法・状況及其得失を調査報告すること 一 慈善団体の統一整善を期し、団体相互の聯絡を図ること 一 慈善団体と慈善家との聯絡を図ること 一 慈善救済事業を指導奨励し、之に関する行政を翼賛すること」と中央慈善協会趣意書には書かれている。[渋沢栄一伝記資料刊行会1959, 325] 中央慈善協会は、大正10（1921）年3月に社会事業協会となり大正13（1924）年3月に財団法人中央社会事業協会へと発展する。昭和21（1946）年に日本社会事業学校が専門家の養成を担い、昭和22（1947）年に日本社会事業協会、昭和26（1951）年に中央社会福祉協議会と名称が変遷し、昭和30（1955）年4月に社会福祉法人全国社会福祉

協議会となり現在に至る民間社会福祉活動の全国的な推進を担うことになった。[全国社会福祉協議会九十年通史編纂委員会2003, 391年表]

渡辺は昭和33（1958）年10月に社会事業会館と同時に宗教法人霊友会の寄付で建立された久保講堂⁴²の落成記念に彫刻《青年の樹》と《不死鳥》を制作した。[全国社会福祉協議会九十年通史編纂委員会2003, 152] 《青年の樹》は円柱と140センチのブロンズ像であり久保講堂の正面中央に立っていた。（写真10）講堂が解体され新霞が関ビルが建った後もビル正面ゲート左手にある円柱の前に現存する。《青年の樹》は若い男女像で男性は植樹スコップを手に女性は樹の枝を握っており「頌社会事業性」を表現している。（写真11）原宿校舎の正門側に制作した《励労》の像と驚くほど酷似しているため着想は同じかもしれない。《不死鳥》は昭和28（1953）年製の大理石像で現在も全国社会福祉協議会中央福祉学院（ロフォス湘南）のシンボルとなっている。なお全国社会福祉協議会の役員室ロビーに飾られている渋沢栄一胸像も昭和29（1954）年に渡辺により作られた作品である。



（写真10）社会事業会館・久保講堂

出典：『全国社会福祉協議会九十年通史』
[全国社会福祉協議会九十年通史編纂委員会2003, 8]



（写真11）ブロンズ像《青年の樹》

出典：『全国社会福祉協議会九十年通史』
[全国社会福祉協議会九十年通史編纂委員会2003, 9]

42 宗教法人霊友会より創始者久保角太郎の十三回忌記念として講堂の寄付の申し出があり建設がすすめられた。久保講堂は1,000名収容可能で森昌子やRCサクセッションなど数多くのアーティストに親しまれた。

IX ウブゴエカラ灰トナリテマデ

アガベ像《ウブゴエカラ灰トナリテマデ》は昭和 35 (1960) 年に 71 歳になった渡辺の晩年の作品である。像の正面下に刻まれた「ウブゴエカラ灰トナリテマデ」の語がもつ意味とは何だろうか、誰に向けられた言葉だろうか。血縁者に対するものか、医療や福祉を支える専門職に対するメッセージか、或いはサービスを受ける人々に対する視点なのか、全人的な人類の沙汰を表す言葉のようで、団体や組織或いは国家の誕生から滅亡までを意味する言葉のようでもある。像を見つめる人が胸にそっと手を当て考えるための誓言ではないだろうか。

1 「ウブゴエカラ灰トナリテマデ」の語は「揺りかごから墓場まで」“from the cradle to the grave”のイギリス社会福祉政策スローガンを意識し影響を受けた言葉と解釈できる。

ウィリアム・ヘンリー・ベヴァリッジ (英・1879 ~ 1963) が 1942 年に発表した『社会保険と関連サービス (Social insurance and allied services)』は、社大の附属図書館に原著が保存されているが第二次大戦後の日本を含む先進諸国の社会保障制度に大きな影響を与えた「ベヴァリッジ報告」と呼ばれる。

人類の発展を拒む 5 つの巨大悪 (Five Giant's Evils) として『窮乏 (want)、疾病 (disease)、無知 (ignorance)、不潔 (squalor)、怠惰 (idleness)』を分類し普遍的な理念を意識した最低生活保障を提言した。この報告書は労働党スローガン「揺りかごから墓場まで」とともに 1946 年イギリスの国民保険法を改正に導き、それまでの健康保険・失業保険に加えて出産給付、退職年金、寡婦給付などを盛り込んだ福祉国家としての社会保障制度が整えられる礎となった。

昭和 31 (1956) 年の日本の経済白書の序文には「もはや戦後ではない」という象徴的な言葉が書かれ高度経済成長によって豊かさを国民が感じとる時代となった。

福祉の学び舎には、灘尾や葛西、木村などが深く関わってきた社会局精神を相承した厚生省現職事務官が入れ替わり招聘され教壇に立つこともあった。学生と教授陣は、望ましい社会保障の在り方や社会福祉の方向性を追求し気炎万丈な議論が展開された。貧しい者だけを救う救貧の時代の終焉にかわって、すべての国民に最低限の生活を保障するナショナル・ミニマムの考え方が浸透していく。自努力では変えることができない貧困や疾病、性別や出身、年齢や思想を問わずノーマライゼーションの理念が掲げられながら共に生きる福祉社会をめざす気運へと繋がっていった。

現在の日本では 65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合は 29.1%⁴³ で世界トップの超高齢社会を突き進んでいる。住み慣れたまちで自分らしく暮らし続けることを目指した地域包括ケアシステム⁴⁴、疾病や障害に偏重せず生活機能に着目したケアマネジメントシステム、妊娠期から出産・子育て期に切れ目のない相談支援体制を目指した日本版ネウボラ、子どもの貧困対策やヤングケアラーへの支援体制の構築、自然災害や感染症対策における福祉システムの構築などのどれをとっても「ウブゴエカラ灰トナリテマデ」の語は不思議とびたり符合する。

43 総務省統計局の発表による 2021 年 9 月 15 日現在の高齢者人口割合で過去最大。

44 団塊世代が 75 歳になる 2025 年を目途に整備が進められている地域包括支援センターは社会福祉士の必置がはじめて規定された。



(写真12) 原宿校舎の正面
写真所蔵：日本社会事業大学



(写真13) 原宿校舎に建つアガベ像
写真所蔵：日本社会事業大学

2 アガベ像は高さ1mの母子像である。母は右手に乳児を抱え微笑する、背は大きな翼で覆われた擬人化された天使像である。母が左手を差し伸べる足元付近にうづくまる子らは既に息絶えていると考えられる。翼を生やした母は、うづくまる子と息絶えて天を仰ぐ子を降り注ぐ恐怖や苦難から守ろうと大きな翼で優しく包み擁護している。

広島から東京へ戻った渡辺は、アガベ像の制作のため再び日本社会事業大学のある原宿へ赴くことになる。安保闘争が高揚を見せて学生運動や労働運動が盛んになっていった時代だった。保育園などを中心に日本ではじめて福祉労働者で結成された日本社会事業職員組合の研究運動も全国へ広がっていった。戦後民主主義の思想が展開し自由という理想を掲げてヒッピー文化が若者の思想的イデオロギーを改造していく中、渡辺は若者の未来に何を期待したのだろうか。

《海の荒鷲》を失ってから石の台座のみとなっていた16～17年間、キャンパスの学生はそれを台座として認識せず「制空」の碑と呼んだ。人は目に映ったものだけしか認識することが出

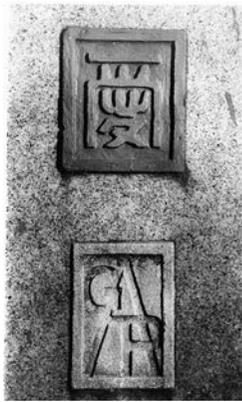
来ない。カレーライスと聞いたときに皿や器をイメージする人はいない。海軍カレー⁴⁵と命名すればなおさらのことである。

原宿の校舎の歴史を塗り替える最後の依頼となった作品は、老いた渡辺がノミを握り作業するのに丁度よいサイズ⁴⁶に収まる台座だったのかもしれない。渡辺の作品は大柄なものが多いが、小柄なアガベ像は渡辺の小さき命への深い愛、失われた命や離別した親子に対する悲痛な想いと哀悼の意が込められている。

「制空」の碑を前にその辿ってきた歴史に触れ、福祉の学び舎に相応しいシンボルの土台にマッチするようにリメイクする職人としての渡辺は、アガベ像と台座をどのように結びつけ創造し構成していったのだろうか。「制空」の二文字を削りとり「愛」と「AGP」のロゴ(写真14)を丁寧に当てはめる渡辺の姿は、これまで接してきた福祉に情熱を燃やす仲間たちとの思い出や寂寥とした哀愁が漂っていた。

45 昭和初期には海軍兵食として定番メニューだった。

46 現存するアガベ像の台座サイズは高さ約120cm×幅97cm×奥行97cmである。



(写真14) 愛と AGP のロゴ
写真所蔵：日本社会事業大学

3 キリスト教のシンボル図典によると、女性の胸は母性のシンボルであり愛や育成、保護の属性を有する。裸体表現は、何も持たずに世に生まれ世を去る時は何も持って行くことができないことを表している。人は正義や信仰、愛情や忍耐、柔和など不滅不変のものを追い求めることから、この世に生まれた自然の状態などを意味する。アガペ像は授乳する姿ではないが、授乳する聖母の図例は多い。足元にうづくまる幼児らの前方には植物のツタのようなものが生えている。ツタは常に死と不死を密接に結び付けられ緑を保っていることから誠実や永遠の生命を表す。まとわりついているものは愛着と絶えることなき愛慕のシンボルと解される。うづくまる幼児らに死が近づいているとすればこの植物はアザミの可能性が高い。アザミは地の悲しみと罪のシンボルとして聖母と十字架に関わる逸話に繋がる。灰は、四旬節の第一日（灰の水曜日）に灰をかぶって悔い改める洗礼を意味する他、肉体の死を表しこの世の生命のはかなさを示している。

仮にキリスト教のシンボルとして鷺を捉えた場合、他の鳥と異なり羽が抜け替わることから

復活のシンボル、正義、勇気、信仰、熟考の美德のシンボル、どんなに空腹であっても後に続く鳥たちのために獲物を半分残しておくという伝承から寛大の意味なども込められる。[中森義宗 1993]

社大の五十年史によると、アガペの意味は「神の愛、誰にでも無条件に注がれる愛。徹底した捨て身の愛。無差別な愛の意。」とある。我を捨てて（忘れて）人を愛する、即ち『忘我愛人』の意と解する。『忘我愛人』こそは、社会福祉の根底に流れる思想といってよい。その意味からいって、アガペ像は本学のシンボルたる所以である。」と書いてある。[五十年史刊行企画 1996, 453-456]

アガペとはギリシャ語で博愛或いは無償の愛を表す。ギリシャ文学で「愛」という概念を表すものは、「アガペ (agape)」「エロス (eros)」「ストルゲ (storge)」「フィリア (philia)」の四つがある。「エロス」は男女の恋愛或いは求める愛、「ストルゲ」は血縁の愛、「フィリア (又はフィロス)」は友愛を表す言葉である。

上智大学のガラルダ⁴⁷はアガペの特徴として「与える愛」に着目し、実践であり痛みを伴う、また自由であり対等であると説く。善いサマリア人の例え⁴⁸を挙げて、解決による安定の追求や共感による献身、褒美を目的としないけれど結果として跳ね返ってくる報いを無意識に期待していると分析する。東京の山谷や大阪の釜ヶ崎で切り捨てられ、真冬无路傍に死にかかっている人が多いのにもかかわらず、恥ずかしいことにおいしい物を食べ温かい布団に入り、本当の貧乏を知らない者が本当は重大ではない悩みを異常に大きな問題にしがちだと警告する。[ハビエル・ガラルダ 1995, 18-28]

47 ハビエル・ガラルダは、1931年マドリード生まれ、元上智社会福祉専門学校校長、イエズス会神父。上智大学大学院で神学を教えた。

48 ルカによる福音書 10.25：隣人を自分のように愛するとき隣人とは誰かとイエスが説いた話。[日本聖書協会 2003]

X 社会局精神

1 灘尾が社会事業に託したものは何か。社会局精神の源流は大正7(1918)年の米騒動にまで遡ると板山賢治⁴⁹は語る。大正9(1920)年に内務省社会局(内局)が設置⁵⁰され、歴代社会局長の回顧録『社会局三拾年』という年史がある。そこに社会局精神とは「声無き人々の声を代弁するのが社会局の仕事であり誇りである」と述懐される。意気軒昂で情熱的、フェビアン主義⁵¹で人道主義、限りなく人間くさい生き方に拘る思想が、先例のない仕事をこなす姿勢に溢れていた。荒廃した沖縄の建て直しや終戦直後の東京の荒野で苦しんでいる障害者や浮浪児や戦災者のために何が大切かといったら、憲法25条にいう社会福祉であり福祉3法⁵²だった。福祉こそ日本の社会を救う、日本を建て直す最大の仕事なのだと思ふ共通した使命感だと豪語する。[蟻塚昌克 2009, 201-204]

占領下においても、社会局は昭和26(1946)年のSCAPIN775⁵³からGHQを後ろ盾にして生活困窮者緊急生活援護など国の予算を大規模に投じ人命を救っていく。社会局の先輩の悲願とは、欧米並みの社会福祉の導入と定着だった。ウィリアム・ベヴァリッジやシドニー・ウェッブなどのイギリスモデルを研究し夢と現実の落差を悲観した。SCAPIN775に示された新しい理念は、諦めかけていた先進国モデルが無条件で直ちに構築すべき至上命令として登場した晴天の霹靂であり、この機を捉えて生存権を保障する全国的な公的扶助制度の確立とそれを支える専門職員の配置、業務の科学化と有給の公務員ケースワーカーの誕生を目指した。[蟻塚昌

克 2009, 137-140]

2 東京大空襲の特徴は、軍需工場や飛行場を狙った他、民間人や住居を無差別に攻撃することで国民の戦意を喪失させるねらいがあったことである。B29爆撃機から投下された油脂焼夷弾は人家を焼き尽くし、火災は強風で更に広がり逃げ場を失い下町大空襲では約9万5千の死者が出た。親と再会できないなどで浮浪する孤児が至る所で収容保護された。戦後、疎開地から東京へ戻り引き取り手のない学童も溢れ、浮浪児童は「狩り込み」と呼ばれ保護され施設収容されたが逃亡を繰り返す児童もいた。東京都の調べによれば戦後から昭和23(1948)年9月までに都内で収容保護された児童は延約1万2千人、実人数では約4千5百人⁵⁴だった。[山辺昌彦 2021, 16-29] 上野は「ノガミ」といわれ戦争孤児・浮浪児・浮浪者が集まる空間となり、雨露しのげる地下道は貧困と犯罪にまみれた集合地域となった。浮浪児たちはごみを漁り、だんご汁・スイトン・雑炊・蒸しパン・芋などの残飯の他、雑草や野良犬も人間の食糧となった。ヤミ市で商売を覚え日銭を稼ぐ浮浪児もいた。戦後は中国や朝鮮で親を亡くした大陸からの引揚孤児も加わった。浮浪児は盗みや恐喝を働く犯罪者とみられ偏見で自殺する者もいた。[浅井春夫 2021, 71-88]

名前や年齢すら言葉にできず、見つからない母親を求めながら息を絶やした幼児、誰も食べさせてくれないから窃盗を繰り返す子どもたち、狩り込まれては脱走や逃亡を繰り返す孤児たち、不潔で不良といったレッテルに苛まれ自

49 板山賢治(いたやま・けんじ、1926 - 2013)元厚生省社会局更生課長、日本社会事業大学初代専務理事・第五代事務局長・名誉博士、社会福祉法人浴風会顧問。

50 1938年1月11日厚生省が新設され内務省社会局社会部を厚生省社会局へ移管された。

51 イギリス社会主義運動の主流だった資本主義の弊害を克服し、道徳的で漸進的な社会変革を実現する人々の思想。

52 旧生活保護法(1946)・児童福祉法(1947)・身体障害者福祉法(1949)

53 連合国最高司令官指令(Supreme Commander for the Allied Powers)Index Number 775は、1946年2月27日にマッカーサーが発した公的扶助3原則の指令(無差別平等の原則、国家責任の原則、最低生活保障)である。

54 戦争孤児数は把握できないが実際には多く存在した。戦争犠牲者なのに戦没者遺族への補償が受けられないなどの不利益を被った。

暴自棄になる子もいた。占領後から数年で米軍兵士と日本女性との間に産まれた混血孤児も施設に収容されていった。深刻な飢餓と無力感、絶望感、喪失感を抱えた人々は、同根の苦しみが広がり心身の回復が不可能な程に深い傷を負った。諦めと傍観が多勢の中、対岸の火事だと傍観できない人たちの正義心が復興から高度成長期をけん引する原動力となっていった。

3 灘尾をはじめとする社会局精神を肌で感じ社会福祉に惹かれた芸術家渡辺は、どのような想いをアガベ像に託したのだろうか。渡辺は青年時代に読書にふけた頃、文学というものがかいに真理への歩みとはいえ、これほどまでに人生の醜悪さを暴露せねばならないかとても耐えられない、世の中を美しくする彫刻の方へ志を変えたと語ったことがある。[黒木利克 1969]

渡辺が経験に裏付けされた卓越した芸術の力をもって福祉社会の進展を祈ったことは疑う余地はない。戦後の焼け跡の悲劇を見てきた一人の大人として、歴史や文化を単に塗り替える作業ではなく人間が先天的に備えている揺るぎない尊さを剥き出しにする、いわば人間らしさを取り戻す作業だったのではないか。

晩年の渡辺はすっかり社会福祉に憑かれていた。人間の尊厳を守ることに自らの芸術をもって声無き者を救おうと実践した。全国の高齢者施設を慰問し入居者の求めに応じて色紙を書いた。ある時はまた障害者の自立支援のための彫刻指導や発達に遅れやつまずきのある子らの情緒安定のための彫刻指導に勤しんだ。戦争や病魔、不幸にも幼くして親を失った自分のような境遇の子らを慈愛するように丹念に作品を仕上げた。

昭和 36 (1961) 年の作品《白雲》は、高さ 50 センチの大理石像である。本や羽を手に握った幸せそうな四人の子が綿雲の中で戯れ、綿雲の上には布をまとった裸婦が座る。昭和 37

(1962) 年の作品《児童憲章》はテラコッタで造られたわずか 30 センチの作品だが、小さな男児と女児を擁護して包む大きな手は社会の在り方そのものを感じさせる。昭和 26 (1951) 年 5 月 5 日に宣言された児童憲章の前文「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んぜられる。児童は、よい環境のなかで育てられる。」は、児童の基本的な人権を尊重しその幸福をはかるために社会全体が遵守すべき規範の理念である。

偶然か必然か、晩年の渡辺がコンパクトな作品へとシフトしたことが社大のシンボルを残すことに功を奏したとあってよい。《社会事業》のレリーフや《励労》の像の壁は余りに古く大きいため、はつれば容易に崩壊したに違いない。清水多嘉示が適度な大きさに設計した台座から《海の荒鷺》の像が去った後、羽を休めにきたアガベ像が唯一大学の移転に伴ってシンボルとして継承された奇跡の工作物である。

昭和 38 (1963) 年 2 月 17 日に彫刻家渡辺がこの世を去り、灘尾は昭和 42 (1967) 年 7 月在りし日の渡辺を偲び「ただわたくしは、古人の所詮『われに素心の友あり』という言葉が、失礼ながら先生に対してかわることのないわたくしの心もちであり、先生のような達人の境地に在られた方と親しくして頂いたことはわたくしの一生の幸福と申したいのであります」と哀悼の言葉を綴った。[灘尾弘吉 1969]

XI 航続を延ばす

1 日本社会事業大学は平成元 (1989) 年に東京都清瀬市竹丘⁵⁵へ移転する。旧原宿校舎の跡地を巡っては渋谷区、東京都、企業などが争奪戦を繰り広げられたが旧海軍館だった建物は平成 4 (1992) 年に解体され、跡地には渋谷郵便局仮庁舎を経て、平成 21 (2009) 年に地上 15 階建ての原宿警察署と地上 16 階建て大型マン

55 他の移転先には横浜国立大学工学部跡地、立川基地跡地、東京都立大学の移転後の跡地、横浜市長浜検疫所跡地、社会保険庁高井戸庁舎などの候補地が挙がった。

ションが立地し今日に至る。

戦争の爪痕が残る旧校舎は、そこで学び福祉の実践現場へ羽ばたいていった社大卒業生とそこに勤務した教職員の記憶の中にしか残っていない。学び舎を確保したGHQや役人の奔走する姿やリメイクに関わった彫刻家の存在を語る者も数少ない。

日本のリハビリテーション医学を牽引した医師で社大元客員教授の上田敏は、総合リハビリテーションの発展は第二次大戦における傷痍軍人への対応や労働災害の増加が大きく影響しており、専門的な職業に至って自身が携っている仕事の成り立ちの歴史を知ることによって進むべき方向が見えてくると説く。[上田敏 2013]

移転した清瀬校舎の土地柄においては国立東京療養所（現国立病院機構東京病院）の一部であり、国民病と呼ばれた結核患者が特效薬のない時代に外気療法と作業療法に励んだ病舎七十二棟が扇状に並んでいた。第二次大戦中は入院していた傷痍軍人が「再起奉公」を願い国民がこれを支えた碑も残された。療養者の中には文学者も多く、この地で悩み、ここで窮め、ここを立ち還る場とする由縁も存在する。悲しみを幸せに変える使命として創立された社大で、社会福祉を学ぶ人たちが温かな手を多くの人々に届ける場となれば功名である。

2 アガベ像はセメントの崩落が激しく、移転の際は清水建設株式会社の厚意により丁寧に修復され清瀬校舎の管理棟南側に台座ごと移設された。その後も気象条件により割れ目が入り内部の腐食した鉄筋が表面からむき出しになるなど著しい損壊が生じたため、平成7（1995）年6月19日の第4回常務理事会にて本像の複製に関して審議され、作者故渡辺義知の作家権を相続している長男・晃一（元日本赤十字看護大学教授）に複製の許可を得た。晃一からは「父の作品の像を、そのように保存のため配慮して頂けることは感謝感激と快諾した。複製工事は平成7（1995）年10月21日から11月20日で

日本彫刻美術株式会社（代表取締役田中高／岡本太郎氏に師事し美術彫刻の制作を多数手がける）に委託され、大理石の碎石とポリエステル樹脂を混合した人造大理石で半永久的に品質が保持されるよう丁寧に完遂された。

校舎や教室を確保し大学として相応しいものにするにあたっては、GHQや厚生省の多大なる配慮があったことを忘れてはならない。[五十年史刊行企画 1996, 71] 現在の清瀬キャンパスにおいても土地・建物が国有財産である類稀な社大の存在は、先人らの努力の延伸であり、その使命と価値は世代が交代しても風化させてはならないものと感じる。

3 令和4（2022）年1月18日の夕刻、古い木箱を抱えた大橋謙策元学長（第七代）が清瀬校舎を不意に訪れた。木箱の蓋の表に「記念品」、裏に「昭和三十四年四月吉日渡辺義知作」朱印が押されていた。側面には「昭和三十二年四月一日 日本社会事業大学開学記念 学校法人日本社会事業学校」、反対の側面には「昭和三十四年一月二十九日 社会事業会館開館式 社会福祉法人社会事業会館」と墨痕鮮やかに書きあげられていた。木箱の中で紙に包まれているのは小さなアガベのブロンズ像だった。ミニチュアのアガベ像が座る椅子の側面には「ウブゴエカラ灰トナリテマデ 1959.」と彫られている。（写真15）

ミニチュアのアガベ像は、解散した一般財団法人社会福祉研究所の中から見つかったので社大に戻してあげた方が良いと大橋元学長から横山彰学長（第十一代）へ手渡された。社会福祉研究所は昭和52（1977）年に木村忠二郎が灘尾弘吉の提案を受けて旧児童福祉文化協会を改組し設立された。当初は約千二百万円の基金を造成しその利子と研究助成金で運営していたが、研究機能の衰退や低金利などにより経営的に厳しい状況となった。仲村優一の後任として大橋氏が理事へ就任し、関連団体の事務委任を受けるなどで経営の立て直しを図ったが好転す

るまでに至らなかった。平成 22 (2010) 年に大橋氏は歴代の想いを継ぎ財団の第五代理事長へ就任したが、残念ながら軌道を回復できず令和 3 年 9 月末をもって社会福祉研究所は苦渋の解散に至った。[大橋謙策, 一般財団法人社会福祉研究所を解散するにあたって 2021, 1-6]

昭和 33 (1958) 年・34 (1959) 年ということだ。短期大学から大学への昇格を機に社会事業会館は原宿 (旧海軍館) から千代田区の新会館⁵⁶へ移転した。6階建ての新会館に併設された久保講堂で昭和 34 (1959) 年 1 月 29 日に催された社会事業会館開館式の記念品⁵⁷として制作されたと推定する。

記念品ということはミニチュアのアガペが複数存在した可能性が高い。木彫なら一点限りだが、ブロンズであれば粘土で作った形を石膏や合成樹脂で型取りして原型を作り、その原型から鋳造されるのが一般的な工法のため複数制作が可能となる。

社大の「建学の精神」である“忘我友愛”“窮理窮行”“平和共生”の三語は、大橋氏が大学建設本部企画室長だった頃、当時の平田富太郎学長 (第四代) の意を受けて校歌から思案した十項目を『移転・発展計画ニュース』に掲載した標語の中から生まれた。[大橋謙策, 平田富太郎先生の思い出 - 社会福祉教育のあり方と社大の教育理念 1995, 47-48] 大橋氏が学長に就任した平成 17 (2005) 年度以後は、教育基本法及び学校教育法の改正により社会貢献が大学の目的に加わることで各大学の「建学の精神」は解放され、社大の「建学の精神」も創立 60 周年を迎えた平成 18 (2006) 年頃から露呈化し絶妙好辞の三語は定着することとなった。[日本社会事業大学 60 年史資料編纂委員会 2006, 32] “窮理窮行”には「理論」と「実践」の双方を窮める願いが込められ「躬行」でなく「窮

行」の字が用いられている。

筆者は本研究報告の初稿を正月休みに書き終えたばかりで、社大卒業生でアガペ像にも大変な思い入れのある大橋元学長へ記憶の一隅でも伺おうと考えていた矢先の不思議で驚喜な出来事だった。



(写真 15) アガペのミニチュア像
所蔵：日本社会事業大学

XII おわりに

アガペ像が社大のシンボルに相応しい理由の一つに、歴史を辿れば《海の荒鷲》という戦争を象徴する像が存在した。像が喪失し孤立した台座は「制空」の碑と呼ばれたが、戦後の平和と福祉教育に願いを託されたアガペ像とめぐり逢い福祉を志す者の象徴となった。アガペ像は台座が見つめてきた情景に花を手向け浄化する。強固な台座は飛び立つ勇者の空母となり鼓舞する。

アガペ像とその台座は、戦前から戦後占領期の福祉政策に携わった声無き者たちを救う精神を継承する証ともいえる。人々の尊厳や不条理に対して社会正義を貫き、福祉政策の変革を志したレガシーである。弱者に寄り添う心を泰然自若に擁護し生命の脆さを警告する。

社大の前史をどう語るか、それは戦争によって引き起こされた苦難や打ち明けることが困難な問題にも配慮していかなければならない。

美術の世界に限らず国家総動員という社会情勢の急変は、あらゆる技術を余すことなく必要とす

56 新会館は千代田区三年町一番地 (現霞が関三丁目) に 1958 年 10 月に竣工 1984 年 12 月に解体されて跡地は新霞が関ビル (1987 年 3 月竣工・地上 20 階地下 3 階) が建てられた。

57 記念品には加藤東一作『千潟』、山田申吾作『富士』、三尾彰藍作『風景』などの絵画も寄贈された。

るところに動員させられた。挿絵画家であり広告クリエイターだった山名文夫も戦争によって本当に描きたいものを見失い、創り出してしまった表現によって多くの若者を空の戦いに羽ばたかせ消えていった命の重圧に後悔した一人である。[馬場マコト 2010, 209-224] 馬場は「戦後の混乱が少し落ち着き出すと、『戦争責任』の問題がいろいろ取りざたされだした。人はその人が生まれた時代をしか生きられない。時代と並走し、時代と共鳴し、時代と呼吸しながら生きたことを、本来だれが批判できるのだろうか。それぞれがそれぞれの方法で精いっぱい生き生活をし、子どもを育てたことを。しかし、戦後、その批判が相ついだ。お互いがお互いの傷口を開き合い、そこに塩を塗りこんだ。」[馬場マコト 2010, 209] と述べている。イデオロギーの偏向や恣意的な眩きは悲嘆した人々の最も脆く柔らかな傷に触れる。

シンボルや校歌は移りゆく時代であってもレゾナント（存在意義）を失わないために存在する。大海の空へ羽ばたこうとする者たちにアガベ像は希望の勇気を与える。消えゆく生命をも全人的な博愛の精神で包み込む。「ウブゴエカラ灰トナリテマデ」の語は、生と死・幸と苦が常に隣接する不条理を忘れさせない。時代を超えて見つめてきた悲劇を消し去ることができない固執こそがシンボルを支えている。

感染症によるパンデミックや度重なる自然災害、世界の地政学的なリスクによって人々の絆が失われつつある現代社会において、福祉に対するニーズは高まり多様化するばかりである。専門的な訓練を受けたソーシャルワーカーが傷ついた羽を休めに降りるとき、或いは声無き人々のために飛び立つとき、社大は知の灯として鎮座する盤石な存在でなければならないと教えている。

社会福祉に携わる人にとって、止め処なく続く高波に怯えることがあるだろう。なぜ学び何のために励むべきか思い迷う時、アガベ像と台座を眺めれば、見て見ぬふりや聞こえぬふりができない

心の機微に気づかされる。大きな岩を頂上まで押し上げては、また転げ落ちる。それでもシーシュポスは再び岩を持ち上げる。その生き方を科せられた罰だと眺めるか、希望の勇者と称賛するか私たち次第である。

ⅩⅢ 謝辞

社大創立七十周年を迎えた平成 28 (2016) 年、筆者は潮谷義子⁸⁸前理事長（第九代）に連れられて米国大使館へ通った。当時の駐日米国大使キャロライン・ケネディ氏から七十周年記念に祝辞をいただいたことは、GHQ の見た夢の続きを実感できたような忘れ難い思い出となった。キャロラインの父である故ジョン・F・ケネディが米国大統領選挙に勝利したのが昭和 35 (1960) 年 11 月 9 日でアガベ像が制作された年の創立記念日と重なる偶然の縁を感じる。本稿の執筆に際し躊躇する筆者の背中を押してくれた潮谷義子前理事長と歴史に向き合う意義を善導いただいた神野直彦前学長（第十代）には深く感謝の意を伝えたい。貴重な資料の収集に力添えをいただいた青山敏子氏と武蔵野美術大学の黒川弘毅教授、全国社会福祉協議会の皆様にこの場を借りて厚く御礼したい。



(写真 16) 清瀬校舎に建つアガベ像
所蔵：日本社会事業大学

58 2017 年刊行『潮谷義子 聞き書き 命を愛する 人は生きているだけで価値がある』（編著：一瀬文秀／西日本新聞）の表紙の写真背景には母校のアガベ像を好んで撮影場所とした。

<文献目録>

- ・ C.F. サムス .GHQ サムス准将の改革 戦後日本の医療福祉政策の原点. 翻訳者: 竹前栄治. 桐書房, 2007.
- ・ ハビエル・ガラルダ. アガペーの愛・エロスの愛ー愛の実践を考える. 1. 第 1272 巻. 文京区: 講談社現代新書, 1995.
- ・ ルーズ・ベネディクト. 菊と刀. 翻訳者: 角田安正. 光文社古典新訳文庫, 2008.
- ・ 安藤俊裕. 終戦時の内務次官、公職追放に. 編集: 日本経済新聞社. 2012 年 1 月 8 日.
https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK2001R_W1A221C1000000/ [アクセス日: 2021 年 12 月 29 日].
- ・ 雨宮央樹. 原宿わんぱく物語. 島影社, 2000.
- ・ 家城定子. 原宿の思い出. 講談社出版サービスセンター, 2002.
- ・ 株式会社 MIT. “福祉時評.” 原宿の 1 等地 “社事大” 校地を検証, 1988, 第 4 版.
- ・ 蟻塚昌克. 証言 日本の社会福祉 1920 ~ 2008. ミネルヴァ書房, 2009.
- ・ 吉田久一. 原宿の二十五年. 第 3 巻. 私製, 1981.
- ・ 吉田裕. 兵士たちの戦後史. 初版. 千代田区, 東京都: 岩波書店, 2011.
- ・ 五十年史刊行企画. 日本社会事業大学 50 年史. 共進, 1996.
- ・ 公益財団法人海原会. “山本五十六元帥銅像.” 公益財団法人海原会. 2015. <https://yokaren.jp/gallery/yusyokan/02.html> [アクセス日: 2021 年 12 月 26 日].
- ・ 国立公文書館アジア歴史資料センター. “海軍広報.” 第二千五百六十一號, 1935 年 9 月 9 日.
- ・ 黒木利克. 渡辺義知 特製本『恩師についての述懐』. 中央区日本橋: 渡辺義知作品集刊行会, 1969.
- ・ 財団法人東亜振興会. 海軍館大壁画史. 海軍館, 1941.
- ・ 山辺昌彦. “東京大空襲の実相と戦争孤児問題.” 著: 戦争孤児たちの戦後史 3, 脚本: 浅井春夫・水野喜代志, 256. 文京区: 吉川弘文館, 2021.
- ・ 山辺昌彦 NHK スペシャル取材班. 東京大空襲 未公開写真は語る. 新潮社, 2012.
- ・ 山本義正. 父 山本五十六一家族で囲んだ最後の夕餉. 第一版. 千代田区, 東京都: 恒文社, 2001.
- ・ 四十年史刊行委員会. 日本社会事業大学四十年史. 編集: 四十年史刊行委員会, 渋谷区: 日本社会事業大学, 1986.
- ・ 社大探検隊. “探検・校舎の歴史 その数奇な運命.” 社大探検隊, 1988.
- ・ 渋沢栄一伝記資料刊行会. 渋沢栄一伝記資料第二十五巻. 編集: 渋沢青淵記念財団竜門社. 第 25 巻 本編全 58 巻、別巻全 10 巻. 中央区, 東京都: 渋沢栄一伝記資料刊行会, 1959.
- ・ 上田敏. 日本におけるリハ医学のはじまりとこれからーその源流とこれから. 医学書院, 2013.
- ・ 浅井春夫. “上野という集合地域と戦争孤児の体験.” 著: 戦争孤児たちの戦後史 3, 脚本: 浅井春夫・水野喜代志, 256. 文京区: 吉川弘文館, 2021.
- ・ 全国社会福祉協議会九十年通史編纂委員会. 慈善から福祉へー全国社会福祉協議会九十年通史. 図版 40p. 千代田区: 社会福祉法人全国社会福祉協議会, 2003.
- ・ 大橋謙策. 一般財団法人社会福祉研究所を解散するにあたって. 所報第 100 号. 全 100 巻. 新宿区, 東京都: 一般財団法人社会福祉研究所, 2021.
- ・ 大橋謙策. 平田富太郎先生の思い出・社会福祉教育のあり方と社大の教育理念. 編集: 「社会福祉教育と平田富太郎先生」刊行委員会. 清瀬市: 学校法人日本社会事業大学, 1995.
- ・ 中森義宗. キリスト教シンボル図典ー世界美術双書 002. 初版. 別巻. 文京区: 東信堂, 1993.
- ・ 仲村優一. “社会事業大学校歌”由来記.” 日本社会事業大学報たけおか第 21 号 [日本社会事業大学] 21 [1996]: 40.
- ・ 鳥取県地域づくり推進部文化財局文化財課. 史跡鳥取藩主池田家墓所. 2006 ~. <https://www.pref.tottori.lg.jp/82541.htm> [アクセス日: 2021 年 12 月 18 日].
- ・ 渡辺義知. “中央社会館の壁面浮彫に就て.” 戦後創設期 / 社会福祉制度・援護制度史資料集成: マイクロフィルム版木村忠二郎文書資料. [VOL]: 第 2 期. 編集: 寺脇隆夫. 東京: 柏書房, 2011 年 1 月. Reel71: 社会事業会館, 社協の予算対策活動.
- ・ 渡邊巖. 要約のとき 半世紀を振り返る. 文芸社, 2009.
- ・ 土田宏成. 日中戦争から日米開戦までの海軍協会の活動について. 神田外語大学日本研究所紀要 4 巻, 2009, 85-107.
- ・ 東京文化財研究所. 美術界年史 (彙報) 『海軍館陳列面画執筆決定』. 独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所, 1936.
- ・ 東郷神社. 御祭神と歴史. 2019. <https://togojinja.or.jp/gosajin> [アクセス日: 2021 年 12 月 18 日].
- ・ 灘尾弘吉. 渡辺義知 特製本『渡辺先生を偲んで』. 編集: 渡辺義知作品集刊行会. 限定 300 部非売品. 中央区日本橋: 渡辺義知作品集刊行会, 1969.
- ・ 日本社会事業大学 60 年史資料編纂委員会. 創立 60 周年記念 10 年小史. 編集: 60 年史資料編纂委員会. 清瀬市: 学校法人日本社会事業大学, 2006.
- ・ 日本社会事業大学社会事業研究所. “研究報告書抜粋 戦後における社会福祉従事者の養成訓練の展開過程.” 日本社会事業大学, 2004.
- ・ 日本聖書協会. 新訳聖書 詩編つき. 中央区: 日本聖書協会, 2003.
- ・ 日本赤十字社. 広島赤十字・原爆病院. 2019. <https://www.hiroshima-med.jrc.or.jp/about/page2.php>.

- ・馬場マコト．戦争と広告．初版．千代田区：白水社，2010.
- ・武蔵美術大学彫刻学科黒川弘毅研究室．清水多嘉示資料論集Ⅰ．共同研究，小平市：武蔵野美術大学彫刻学科研究室，2009, 254.
- ・福祉新聞．“日本の福祉の草分け 渋沢栄一が新1万円札に．”日本の福祉の草分け 渋沢栄一が新1万円札に，2019年4月22日．